

灯台もと暗し！？

南越前町の本当の価値とは

貢 駿登、櫻本 聖成

■活動内容

体験型ゲストハウスによる今庄宿観光地化計画

①今庄宿・遺跡散策 空き家空地問題の現状把握 まちみらいチャレンジ作戦会議

行き場を失った伝統的日本家屋を価値化させる提案をするという内容。

②空き家のゲストハウスとしての利活用として検討 ゲストハウスの運営方を考案

空き家の周りに小さな経済圏とコミュニティを形成する案の検討。

③伝統工芸品体験型のゲストハウスの可能性を検討

越前に根付く伝統工芸品の体験型宿としての集客とともに、宿泊後の訪問先をもデザインする案を検討。

④工房を訪問 越前の伝統工芸を学ぶ 職人の技を拝見・取材

伝統工芸品と伝統的日本家屋という「古いもの」を価値化させる空間を目指す案として検討。

⑤ゲストハウス実現に向けた開業時期・イベント・運営方式の検討

伝統的日本家屋は「夏を旨とすべし」といわれるように、暑い夏に本領を発揮する建築物であることから、夏にオープン時期を合わせてその良さを一層伝えるよう、今年の夏を開業目標としている。

■町との関わり

計4回（5日間）の福井県滞在

中谷翔さん（玉村屋）野村直樹さん（玉村屋）、貢繁幸さん（みつぐはうす工房）

長田製紙所（越前和紙）、柳瀬良三製紙所（越前和紙）

龍泉刃物（越前打刃物）、曾明漆器店（越前漆器）、漆琳堂（越前漆器）

■情報発信

Instagramにおいて、我々が目指すゲストハウスでの体験や、町とのつながり、風景とのつながり、目指す町の展望などを滞在中に撮影した町や空き家、工芸品の画像とともに発信。関連のハッシュタグによって、空き家やリノベーション、伝統工芸に興味のある不特定多数の人により届くような内容とし、「いいね」や「フォロー」など、多数の関心が寄せられた。

■成果（変化）

・実際に特定の地域に焦点を当てて、過去の歴史や文化を知り、現在の問題をとらえて、未来を考えるというフィールドワークを経験できたということが何よりの収穫。

・町の「いいところ」を探す癖がつき、他の建築や街並み、風景の特徴を探す視点を持つことができたこと。

・今庄生まれ今庄育ちの貢と、大阪生まれ大阪育ちの櫻本との連携によって、それぞれが別々の視点を発見できたこと。

・街並みや建築物を保全する重要性、空き家問題の深刻さ、空き家のポテンシャル、歴史深い今庄という町のポテンシャルの大きさを感じることができたこと。

〈これから〉

ゲストハウス実現に向けて環境を整え、開業とともに運営を開始。

ゲストハウスの設え、維持管理の仕事マニュアルを整備。旧岡田家によるゲストハウスと、旧西山家のイベントスペースとの連携をデザイン。

■活動に関する写真等



SENA_SHUNTO

